

THE BOSUI JOURNAL
防水ジャーナル

ROOFING/SIDING/INSULATION/RENEWAL

8

2012

No.489



● **信頼される防水工法 塩ビ系シート防水の魅力**

● **構造躯体を下から支える地下防水技術**

特集

コンクリートの打継ぎの盲点

鈴木 哲夫

外周外壁の目地からの漏水は、内装があったり、床にかさ上げがある場合には、なかなか発覚しないケースが多い。結露がひどく、異常にカビが発生するなど何らかの症状が現れ、床を剥がしてコンクリート面の湿りを確認してはじめて漏水に気付くのである。目地のシーリングは見たところ何の問題もないが念のため打ち替えておこうか、と工事関係者は考える。しかし、これでは片手落ちだ。せつかく調査するなら、次のことを疑ってほしい。

まず第1に、コンクリートがどのように打ち込まれたかを確認したい。壁立上りコンクリート打ち込み前に水平打継ぎ目地棒の天端をきれいにケレン清掃したかどうか注意深く観察することだ。図-1(写真-1, 2)のような場合は、目地天端より少

し上に界面や打継ぎ不良があるの

で、いくらシーリングが完璧でも雨水は界面から浸入する。

第2に、タイル張りの場合はタイル割付けにより目地位置が決まるので、躯体の目地とタイル目地が合うよう寸法調整されている場合はよいが、図-2のように打ち込み時に造ったタイル水平伸縮目地(A部)と躯体打継ぎ目地(B部)が同一位置にない場合が多い。タイル張

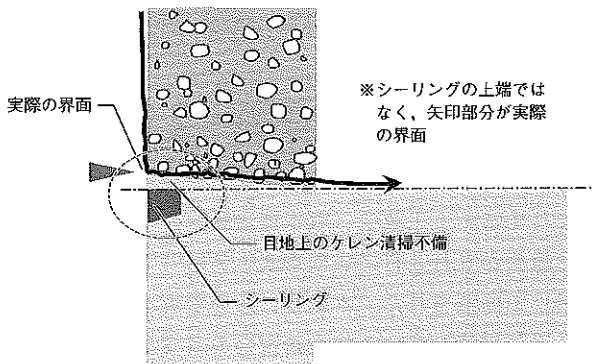


図-1

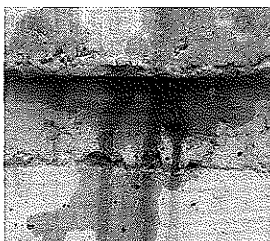


写真-1 シーリング目地上にできた実際の界面



写真-2 躯体打継ぎ目地上部の打ち込み不良

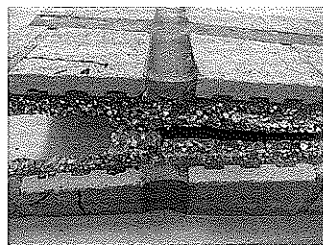


写真-3 タイル水平伸縮目地が躯体に届いていない

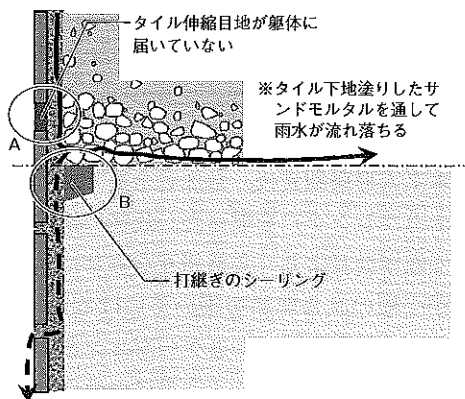


図-2

りには、サンドモルタルによる下地調整を行っていることもあり、この部分を水が通る。写真-3のようにタイルの水平伸縮目地が躯体に届いていないとタイルが浮きやすくなり、躯体に不具合があれば、図-2に示したルートで漏水しやすく、タイルを剥がして下地の状態や目地位置を確認しないと分からないので注意したい。

タイル面の目地を中心にして上下100mm程度の範囲を剥がせば躯体の打継ぎを確認できる。シーリングが施されているか、打継ぎの状態を併せて確認したいところである。

(術)鈴木哲夫設計事務所 代表取締役